

(表1) 平成11年度のバランスシート(平成12年3月31日現在)

(単位:千円)

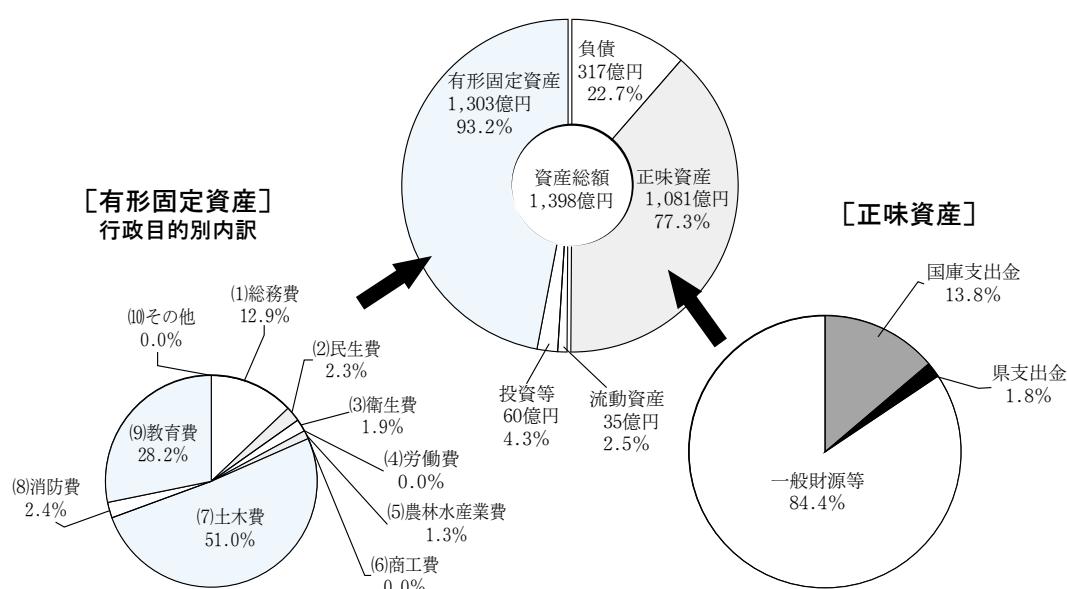
借 方	H10比較	貸 方	H10比較
[資産の部] 市が保有している財産		[負債の部] 市が負っている債務	
1. 有形固定資産 (庁舎、コミセンなど)	16,830,975	1. 固定負債 (1年を超えて支払う額)	
(1) 総務費	△354,999	(1) 地方債 借入金など	23,164,198
(2) 民生費 (保育所、障害者福祉施設など)	△105,309	(2) 債務負担行為	0
(3) 衛生費 (美化センター、保健相談センターなど)	△230	(3) 退職給与引当金 (全職員の退職金見積額)	6,770,342
(4) 労働費	0	固定負債合計	29,934,540
(5) 農林水産業費 (農道、用排水路など)	1,758,429	2. 流動負債 (1年内に支払う額)	
(6) 商工費 (観光施設など)	△63,386	(1) 市債の翌年度償還予定額	1,780,486
(7) 土木費 (道路、河川、公園、住宅など)	66,382,111	(2) 翌年度繰上充用金	0
(8) 消防費 (消防庁舎、消防自動車など)	3,109,444	流動負債合計	1,780,486
(9) 教育費 (学校、図書館、総合体育館など)	△39,040	負債合計	31,715,026
(10) その他 (うち土地)	36,724,805		△118,978
	13,696		
	△719		
	(54,318,345)		
有形固定資産合計	130,254,045		
2. 投資等 (投資や基金、その他の資産)	2,441,498		
(1) 投資及び出資金	125,066		
(2) 貸付金	44,074		
(3) 基金	5,845,977		
投資合計	6,015,117		
3. 流動資産 (現金など)			
(1) 現金・預金 決算の歳入歳出差引額など	2,187,875		
(2) 未収金	1,323,303		
流動資産合計	3,511,178		
資産合計	139,780,340		
※債務負担行為に関する情報			
① 物件の購入等に係るもの			
② 債務保証及び損失補償に係るもの			
③ 利子補給等に係るもの			

このに対しバランスシート(表1)は、学校や道路などの資産がいくらいのお金を使つたの状況(フロー情報)を記録するもの。

海老名市では、市の財政状況を今までとは違つた視点でとらえ、企業会計の手法を取り入れた、バランスシート(貸借対照表)を作成しました。なお、このバランスシートは自治省が示した作成基準(以下、自治省報告書)に基づいて作成したものでした。

これに対しバランスシート(表1)は、学校や道路などの資産がいくらいのお金を使つたの状況(フロー情報)を記録するもの。

(図1) ひと目でわかるバランスシート ~各項目の割合~



市債は、6・7年度にそれぞれ約50億円の借入を行いましたが、ここ数年は約13・15億円の借入となっています。10年度からは借入額より償還する元金の方が上回り、その結果、負債となる地方債の全体額は10年度より減少し、固定負債は、2億1,000万円の減額となっています。

流動負債は、翌年度償還元金のみですが、6・7年度に借り入れた高額な市債の元金の償還が3年間の償還期間を終了しました。

10・11年度から始まったため、翌年度1年度分の償還元金のみを比較すると増額になりました。

退職給与引当金については、行政改革など、さまざまな取り組みの中で、職員数の増加は抑えられています。そのため、市制施行後数年間は、事務量の増加に対応するために多くの職員を採用しましたが、そうした職員の勤続年

従来の市の会計は、1年間に使つたかという現金の收支状況(フロー情報)を記録するものです。

これに対しバランスシート(表1)は、学校や道路などの資産がいくらいのお金を使つたの状況(フロー情報)を記録するもの。

これに対しバランスシート(表1)は、学校や道路などの資産がいくらいのお金を使つたの状況(フロー情報)を記録するもの。

これに対しバランスシート(表1)は、学校や道路などの資産がいくらいのお金を使つたの状況(フロー情報)を記録するもの。

海老名市では、市の財政状況を今までとは違つた視点でとらえ、企業会計の手法を取り入れた、バランスシート(貸借対照表)を作成しました。なお、このバランスシートは自治省が示した作成基準(以下、自治省報告書)に基づいて作成したものでした。

これに対しバランスシート(表1)は、学校や道路などの資産がいくらいのお金を使つたの状況(フロー情報)を記録するもの。

わがまちのバランスシートを紹介します(平成11年度)

債は317億円で資産の22・7%を占め、正味資産は10・8・1億円で資産の77・3%を占めています。各項目の割合は(図1)のとおりです。

有形固定資産の内訳は、土地が543億円(41・7%)、建物・設備等が760億円(58・3%)です。これを行政目的別みると、木費が最も多く664億円(51・0%)となっています。また、土木費の中では、道路が267億円、都市公園が190億円で、木費が最も多く664億円(51・0%)となっています。

道路・都市公園で土木費全体の69%を占めています。

負債の内訳は、固定負債が299億円(9・4%)、流動負債が18億円(5・6%)です。固定負債は地方債(翌年度償還元金を除く)が231億円(77・4%)で、退職給与引当金が68億円(22・6%)となります。

有形固定資産は、土地については減価償却をしないため、11年度中に取得した28億円(1万2532平方㍍)が10年度より増加となります。建物等は減価償却をします。

未収金は決算における市税等の収入未済額ですが、滞納整理などへの取り組みの効果が表れました。

歳計現金には決算での歳入歳出差額を計上しています。10年度度は翌年度への繰越事業が多くありました。そのため10年度と比較すると、11年度は4億円の減額となります。

未収金は決算における市税等の収入未済額ですが、滞納整理などへの取り組みの効果が表れました。

歳計現金には決算での歳入歳出差額を計上しています。10年度度は翌年度への繰越事業が多くありました。そのため10年度と比較すると、11年度は4億円の減額となります。